



発行 協同組合盛岡卸センター
岩手県紫波郡矢巾町流通センター南一丁目2番15号
TEL 019-638-1111(代) FAX 019-638-4532
URL <http://www.morioka-oroshi.jp/>

2025年1月1日



年頭のあいさつ

理事長 藤村文昭

明けましておめでとうございます。組合員並びに賛助会員の皆様には、健やかに新しい年をお迎えのことと心よりお慶び申し上げます。

昨年は、国内外でさまざまな出来事がありました。一月には石川県能登地方を震源とするマグニチュード七・六の地震が発生し、東日本大震災以来の津波被害を伴う大災害となりました。更に九月には同じ奥能登で豪雨災害が発生するなど、自然災害の多い一年でした。

加えて、ロシアによるウクライナ侵攻の収束が見えない中で、日本経済は原油価格の高騰、円安による物価上昇、人手不足による人件費や配送コストの上昇など、厳しい経営環境が続いております。国政においても、十月の衆議院議員総選挙では与党が過半数割れとなり、今後の政権運営が不安視されております。一方で、スポーツ界では明るい話題が続きました。パリオリンピック、パラリンピックでの日本選手の活躍や、大谷翔平選手が史上初の「五十本塁打・五十盗塁」を達成するなど、世界を驚かせる記録を残しました。

また、七月には二十年ぶりとなる新紙幣が発行されるなど、歴史的な出来事もありました。

こうした中、当組合においては、組合員企業が抱える慢性的な人手不足を解消するため、ハローワーク盛岡の協力のもと、合同企業説明会や就職相談会を開催いたしました。この取り組みにより、求職者と企業のマッチングを促進し、多くの採用に繋げることができました。

また、新たな試みとして八月には組合員企業の社員限定で「ラポールビアガーデン」を開催いたしました。参加者は五百名で、交流の場として組合員間の連携を強化することができました。

更に、全国卸商業団地協同組合連合会の新たな支援事業に応募し、組合会館「ラポール盛岡」のバリアフリー機能を備えたり、メンテナンス計画を進めております。耐震診断の結果や組合員のアンケート調査をもとに、組合会館の安全性と利便性の向上をさるとともに、地域の交流拠点、防災拠点としての機能強化を目指します。今後、高度化資金の活用を視野に具体的な計画を立案し、地域活性化にも貢献できるよう推進してまいります。

当組合は、設立から五十年以上を経過し、時代の変化とともに新たな課題に直面しています。こうした中で、組合の一体性を維持しつつ、組合員並びに賛助会員の皆様のご理解とご協力のもと、地域社会とともに更なる発展を目指してまいります。

本年も、組合員並びに賛助会員はじめ関係各位のご支援をお願い申し上げます。

（四）ラポールピアガーデンの開催方針について

本年度実施したラポールピアガーデンについて、開催後に収支状況や運営等の様々な意見と他団地の同様の当組合の経営面での具体的な影響なども検討した上で、今後関係者と調整を図り取り進めていくことを報告した。

（五）年間スケジュールについて

令和七年度の理事会および令和八年度通常総会までのスケジュール案を報告した。

二、提出議案 第一号 機械警備事業利用料金改定の承認について

機械警備事業は組合と警備会社間で業務委託契約を締結し、組合員企業は利用組合員として警備を実施している。今般、人件費や物流費および各種機器費等の上昇に伴い、全てを企業努力のみでは困難であると料金改定をお願いがあった。事業開始当初から団地の特性を活かし地域一帯を警備対象とし、スケールメリットを活かすことにより事業運営を実施してきたことを踏まえ、警備会社内で検討いただいた。今回提示された増額分を事業へ価格転嫁し、来年度より料金の改定をすることで承認された。

「第六部会視察研修会」を開催

りんごの生産量日本一を支える研究所

令和六年十月二十九日(火)部会員十二名が参加し、青森県黒石市から弘前市を巡る視察研修を実施した。青森県といえは広く知られている。そこで初めに、青森県黒石市にある「地方独立行政法人青森県産業技術センターりんご研究所」を訪れた。研究所では、栽培部、品種開発部、病害虫管理部、県南果樹部に分かれており、敷地内には研究施設の他、研究

用の広いりんご畑や史料館がある。最初にご案内いただきながら、全員でりんご畑を見学した。

十ヘクタール程のりんご畑には、栽培方法ははじめ、樹形、新品種の育成、剪定方法の比較など様々な試験研究中のりんごの木が植えられており、見事に実ったりんごたちが青空のもとツヤツヤと輝いていた。

明治に始まった国内りんご栽培の歴史

我々が現在よく食べている西洋りんごの日本における栽培の歴史は、明治四年に七十五品種のりんごの苗木をアメリカから輸入したことが始まりとされている。その後全国各地で試作が行われたことで、りんご栽培には信州や東北地方などの比較的冷涼な地域が適しているという結果が得られた。青森県内においては、明治八年に三本の苗木を青森県庁構内に植えたところからりんご栽培がスタートした。その後明治二十年代には栽培が本格化し生産者も増えていくわけだが、そこには明治維新によって武家社会が終わり、武士という仕事を失った人々の多くが、りんご農家へ転じたという時代背景があった。

明治三十年代になるとりんご栽培の天敵となる病害虫が蔓延する問題が深刻化し、廃園する農家が続出したことで、当時日本の一大産業を形成していた果樹栽培という分野に大きな影響を与えた。このことから病害虫のみならず栽培に関する諸問題について民間の力だけで対処するのはなく、公的な研究機関を設立してほしいという多くの農家の



訴えを受け、明治四十四年に本格的な試験研究に着手したことが、現在のりんご研究所の礎となった。

見学したりんご畑は細長い樹形の木が等間隔に植えられており、岩手県ではあまり見かけない光景だった。これは「高密度栽培」と言われ、積雪量の多い青森県において、雪の重さにより枝が折れる被害を軽減するだけでなく、木そのものがコンパクトなサイズであるため、作業をする上でも省力化に繋がる栽培方法なのだ。また、木が小さい分、一本あたりからの収穫量は減るものの、面積あたりに植えられる本数は通常の数倍となるため、結果として収穫量が増えるというメリットもあるとのことだった。しかし初期投資にかかる費用が高額なことや、高密度栽培に必要な苗木を生産本数が限られていることなどが、今後の更なる普及へ向けた課題なのだ。

マイナス要素を補う農家の技術と経験

そして解説をしていた中で最も驚いたのは、青森県の気候が実は必ずしもりんご栽培に適しているわけではない、というお話だった。特に栽培が盛んな津軽地方は、りんごを育てる上で重要な冷涼な土地であるという点では良いのだが、本来りんごは比較的乾燥した土地を好むため、豪雪地帯である津軽地方では湿度が高すぎるのだ。そういったりんごにとつてマイナスに働いてしまう面は、様々な技術によりカバーされているのだという。

真面目で負けず嫌い、そして頑固な性格であることを津軽弁で「じよっぱり」というそうだが、青森県が今日りんごの生産量のみならず、その質の高さにおいても日本を代表する一大産地となった背景には、りんご研究所をはじめとした研究機関がもたらす技術的な進歩と、津軽地方のじよっぱり気質が生産者の方々のたゆまぬ努力があるのだと感じた。

続いてりんご史料館を見学した。イギリスの建築様式を参考に建てられた建物は、葛に覆われ洋館という呼び方が



つたりの雰囲気だ。世界のりんごの歴史や基礎知識を学ぶことが出来るコーナーをはじめ、これまでの研究成果や、世界のりんごの品種紹介がリアルな模型とともに展示されており、参加者はそれぞれに資料を眺め理解を深めているようであった。

魅力溢れる津軽の伝統文化に触れる

「津軽藩ねぶた村」へと向かった。施設に入ると高さ十メートルの大型ねぶたが見学者を出迎えるのだが、四方どの角度から見ても極彩色の美しい装飾が施されており、思わず感嘆の声が漏れた。ねぶた祭りの起源や、どのように伝統が引き継がれてきたのかを伝える資料が写真とともに豊富に展示されており、参加者は思い思いのコーナーで足を止めじっくりと見学していた。

そしてねぶたと並ぶ津軽地方の有名な文化として、津軽三味線がある。津軽藩ねぶた村では日に数回、決まった時間に津軽三味線の生演奏が行われており、我々も館内を一通り見学したところから、ちようど演奏時間となり聴くことができた。奏者の方が演奏を始める前に津軽三味線についての簡単な解説をするのだが、その柔らかい語り口調とは打って変わり、ひとたび音が鳴ると会場内が一気に凍りついた空気に包まれたように感じた。この二曲目に演奏された「津軽じよんから節」は、たった一本の三味線から鳴っているとは思えない程、まるで音が体にぶつかってくるかのような迫力があり、生演奏でしか味わうことのできない感覚を体感することができた。

ここで津軽三味線という音楽がどのように誕生したのかを紹介したい。津軽三味線の始祖は、後に「仁太坊」にたぼう」と呼ばれ、明治から昭和を生きた盲目の男性・秋元仁太郎(にたるう)という人物であると言われている。仁太郎は幼い頃に天然痘にかかり失明してしまふ。母親は仁太郎を産み間もなく世界なつてしまったことから、若くして天涯孤獨の身となった仁太郎は、自分だけの力でなんとか生きていくために、かつて修得した三味線一本を携え、民家の軒先や各地のお祭りなどを回り、自らの演奏の対価として食料やお金をもらって生計を立てる「門付け芸人」となった。

仁太郎はその飽くなき探究心で芸に邁進しめきめきと腕を上げ、独自の三味線を確立していく。そうして日々門付け芸を行うなかで、より多くの人の注目を集め演奏を聴いてもらうための工夫として、バチを弦に激しく叩き付けて大きな音を鳴らす革新的な奏法を編み出したことが、津軽三味線の起源とされている。やがて仁太郎と同じような境遇にある魅了され弟子入りを志願し、生涯を通じて六人程の弟子を育てたそう。

しかしこの頃、門付け芸人は「乞食、卑しい人」と蔑まれ、ひどく差別されたのだという。現代とは違い、視覚に障害のある人々が就くことのできる職業が相当に限られていた当時、彼らほどんなに理不尽な目に遭おうとも懸命に己の芸を磨き、今日を生きて延びるためその道をただひたすらに進み続けるしかなかった。盲目の彼



らにはもちろん楽譜というものは存在せず、人の演奏をその耳で何度も繰り返し聴き、独学で自分のものにしていった。そんな弟子達に仁太郎は繰り返し「人まねではなく、お前の三味線を弾け」と説いたそう。人が鳴らした音をそのままなぞり演奏するのはなく、弟子自らの感性によって表現することを最も大切にしたという。世間の冷たい視線を浴びながらも歯を食いしばり生きる弟子達に「自分が体験した悔しさや苦しさをすべて肥やしに変えて、お前にしか表現できない音を鳴らさない」と言っていた。よな、仁太郎の厳しくも深い愛情が込められた教えたと感じた。

津軽三味線は同じ曲でも弾く人によって全く別物になると言われる程、奏者の個性が強く現れる音楽なのだそう。その荒々しくも繊細な音色には、逆境を生き抜いた秋元仁太郎という人物の教えが、巡る時代の中にあつても変わらずに宿り続けているのだと知った。

課題を原動力に！

若手りんご農家達の挑戦

最後に弘前市りんご公園のりんご畑の中にある、大きな三角屋根が特徴的な「弘前シードル工房 k i m o r i」を訪れた。こちらでは傷が付くなどの理由から選果外となつてしまつたりんごを使い、若りんご農家の方々が自らの手でシードルの企画・開発から醸造までを行っている。シードルが作られるまでの過程等について解説をしていただきながら、k i m o r i で作られたシードルカリಂಗジュースを試飲させていただくことができたのだが、すっきりとした甘さでやさしい酸味があり、自然と表情がほころぶ味わいであつた。

この「k i m o r i」という工房の名前は「木守」という伝統的な習わしから付けたという。木守とは、実つたりんごをあえてひとつだけ収穫せず木に残し神様へのお供えとすることで、今年の実りに感謝し、来年の豊作を願う気持ちを含めるといふものだそう。りんごは自分たちが汗水を流し手塩にかけて育てたものではあるが、それは人間の力

だけで成されて決していることでは無く、自然の様々な恵みがあつてのものという謙虚な思いを忘れず、自然に感謝して生きる農家の方々の姿勢が現れている素敵な習わしだと感じた。

現在りんご農家は深刻な後継者不足が問題となつており、弘前市においては後継者がいる農家は二割程しかいないのだそう。そういった問題に直面している農家の現状や、りんごの魅力について多くの人に知ってもらいたいという思いから、シードル工房の立ち上げに至つたとのことである。

また、より多くの人にりんごに触れてもらう機会を作るため、今年初めての試みとなる「RINGO MUSIC FES」を入園無料で開催したそう。地元出身のダンス&ボーカルユニット「りんご娘」や、タレントの王林さん、一青窈さんなど多くのアーティストが出演し、来場者は約一万人と大盛況だったという。この反響を受け、来年二度目となる開催も既に決定しているとのこと。

第六部会は農用資材・薬品を扱う会社で構成されているのだが、りんごを作り販売するだけでなく、農家の未来を照らす新たな取り組みの数々に対し、研修参加者からも色々な質問が上がるなど関心の高さが窺えた。工房の見学を終えた後はりんごに関する商品が豊富に揃う近くのお店に立ち寄り、k i m o r i シードルはもちろんのこと、皆それぞれにお土産を選んだり買い物を楽しみ、その後帰路に就いた。



充実した時間となつた。この一日を通して学んだことや感じたことが、参加者それぞれでの生活の中でいつか何らかの形でささやかな実りとなることを願い、この旅行記の締めくくりとする。

「新入社員フォローアップ研修会」を開催

十一月一日金ラポール盛岡研修室において、組合主催による令和六年度新入社員フォローアップ研修会を、(株)経営コンサルタント協会派遣の須藤達氏を講師に迎え、七社十名の参加により開催した。

入社から約七か月が過ぎ、入社時からの振り返りや、主体的な仕事のとりえ方等を講義やグループワークを通じて学んだ。

研修の中で「役割の違いと着眼点」の講義があり、役割を決めるロールプレイング形式で各役割に応じて着眼点が多様な視点が必要となることを学んだ。こうした意識を持った働き方は、誰もが一度は思い起こしたい。



「生活習慣病予防健診・がん検診」を実施

十一月五日〜八日の四日間、盛岡地区勤労者共同福祉センターにおいて「秋の

生活習慣病予防健診及びがん検診を実施し、四日間で三百二十四人が受診した。感染症予防として健診会場内では極力手指消毒を呼びかけるなどの対策を講じた。早朝のため最低気温二度の日もあったが、受診率も九十四%と良好であった。



「インフルエンザ集団予防接種」を実施

十一月六日(水)に福祉センター大ホールを会場として、市内医療機関の協力により組合員および賛助会員企業の従業員対象インフルエンザ集団予防接種を実施した。



当日は五十六社四百十六名の接種で昨年より三十九名増えた状況ではあったが、接種者の協力によりスムーズに運営することができた。平日に短時間で接種ができることと後日の一括精算処理ができるため接種者からも継続実施希望の意見をいただいております。次年度も同時期に開催する予定である。

「第一部会(繊維部会)定例会」を開催

十一月十二日(火)ラポール盛岡研修室

において四社七名の参加により繊維部会と繊維部会企画委員会との合同会議を開催した。

会議では、令和七年の共同売り出しカレンダーの最終デザイン案やその発送方法、毎年開催している抽選会の日程などについて協議がなされた。

また、最近の業界の状況についても各社の情報交換を行った。

物価の高止まりによる衣料品類の買い控え、暖冬傾向によるアウター類の不調など苦戦が続いているようだが、衣料品にこだわらず雑貨類で売上を伸ばしている企業もあるようだ。

会員数は三社と少なくなりましたが、活発な意見や情報交換がなされ今後もさらに協力を強める機会となった。

「秋の団地内一斉清掃」を実施

十一月十二日(火)〜十四日(木)流通センター内「秋の団地内一斉清掃」を実施した。

十四日午前十時からは清掃実施状況の確認のため、環境整備委員会委員が流通センター内を四コースに分担して巡回した。

巡回確認の結果、例年巡回の際にもゴミを拾うことが多々あるが今回はほとんどゴミを拾うこともない

ほどゴミが少なくなかったとの意見が多かった。この結果、組合員および周辺企業の意識が高まっている。また、委員会で度々意見が出て道路部分の雑草についても綺麗に清



掃されている企業が増えてきている。しかし手付かずの場所もまだあり、余計に目立つので引き続き組合員および賛助会員にはご協力を頂きたい。また、委員会の中で特に綺麗であった企業については、組合ホームページに写真とともに掲載予定である。

「若年者対象就職相談会」を開催

十一月十四日(木)にハローワーク盛岡、矢巾勤労者共同福祉センターの共催により「若年者対象従業員を育てる企業就職相談会」を開催した。六月も若年者対象としており、三名の参加となった。第一部の合同企業説明会では求職者全体に対して各企業が十分ずつプレゼンテーションを行い、求職者は全六社の事業内容等を確認する機会となった。第二部の就職相談会では企業毎にブースを設け個別相談を行った。



組合では、雇用支援事業として二月にも合同企業説明会を開催する。

「最新の労務事情法改正に伴う勤怠管理について」講習会を開催

十一月十九日(火)労務厚生委員会によ



「最新の労務事情」法改正に伴う勤怠管理について」と題しての講習会を二十七日の参加により開催した。クロノスの株式会社の大場裕一郎氏を講師に迎え、現地とオンラインの併用で開催した。本講習会では、基

本となる法改正により企業が義務付けられる事柄の確認と勤怠管理システムによる解決方法の解説がなされた。

組合員の各企業においては様々なシステムを導入済みであるとは思われるが、未使用の機能や新たなサービスを活用し、複雑化する働き方改革関連法案や多様な働き方に確実に対応しつつ、簡単に解決できるような方向性が示されたと思われる。

また、質疑応答の時間では各社の抱える具体的な勤怠管理についての疑問に対する回答があり有意義な講習となった。

「第四部会秋季懇親会」を開催

十一月二十二日(金)料亭喜の字において来賓四名を含めた二十名の参加により第四部会秋季懇親会を開催した。島山部会長の挨拶と岩手銀行漆沢支店長の来賓挨拶に続き、藤村副部会長の乾杯により宴に入った。限られた時間の

中ではあつたが、その業務を振り返り、業界の情報や近況など報告やお問い合わせが、最後は乙道副部長の中締めによりお開きとなつた。

「経営研究会十一月例会」を開催

十一月二十日(水)モンテボッカにおいて経営研究会の十一月例会を二十三名の参加により開催した。今回の例会は今年度開催されたラポールビアガーデンについての意見交換会を行った。



経営研究会はイベントの構想初期から関わっていた経緯もあり、イベントの長所や短所、改善すべき事柄が様々な視点から飛び交った。懇親会も見交はし、お交際の機会を確保する。確認する。重要な点を改めて確認する。確認する。確認する。



のラポールビアガーデンにて活かして、より良いイベントとしたい。

「各部会忘年会」を開催

忘年会を十二月六日に第二部会、十二日に第六部会、十三日に第三部会、二十日に第五部会がそれぞれ開催した。(写真は第三部会、第六部会の様子)



ラポール盛岡
1Fロビー催事予定

	催事内容	開催日
1月	乾物・珍味販売	9、16、23、30
	婦人服販売	22～24、27、28
2月	乾物・珍味販売	6、13、20、27
	婦人服販売	25～28

令和七年新春セミナー・
新年交歓会のお知らせ

日時: 令和7年1月23日(木) 午後4時～
場所: 「ホテルメトロポリタン盛岡 NEW WING」
盛岡市盛岡駅前北通2-27
TEL:019-625-1211

講師: Defios(株) 代表取締役 竹田 大将 氏
演題: 「流通における生成AI活用の可能性」

※セミナー終了後、交歓会を開催



行事予定	
6日(月)	矢巾町新春の集い(矢巾町)
8日(水)	(一)社 岩手経済同友会 新年祝賀交歓会(市内)
14日(火)	第1部会(靴部会) 例会 経営研究会 役員会 新春中央会
15日(水)	組合トップセミナー(市内)
16日(木)	全国卸商業団地協連合会 新年賀詞交換会(東京都)
22日(水)	第1部会(繊維部会) 例会 組合新春セミナー並びに 新年交歓会(市内)
23日(木)	盛岡地域雇用開発協会 役員会(市内)
28日(木)	支援事業委員会
30日(土)	
〔2月〕	
5日(水)	企画委員会
7日(金)	第1部会(靴部会) 新年会(市内)
17日(月)	第4部会 新年交流会(市内)
19日(水)	東北卸商業団地連絡協議会 幹事会・交流会(沖繩)
20日(木)	第9回 理事会
25日(火)	若年者対象就職ガイダンス
26日(水)	東北卸商業団地連絡協議会 職員研修会(盛岡市)

組合異動状況

代表者変更 (一)内前代表者・敬称略

・(株)三協メディケア(第6部会)
代表取締役 齊藤 大輝(齊藤 哲哉)

組合共同給油所「MOCCS」をご利用ください。

組合共同事業
共同給油所 MOCCS SS 流通商事(株)

住所: 矢巾町流通センター南3丁目 10-1

※広宮沢公園のすぐそばです。

Tel: 019-637-2478

営業時間: 7:00-21:00 祝日 7:00-20:00

定休日: 日曜日・1月1日、2日

MOCCS LINEアカウント



ガソリン価格情報や、タイヤ・オイル交換・洗車サービスなどお得情報を配信しております。
左記のQRコードを読み取るだけで簡単に登録できます！

※QRコードは(株)デンソーウェブの登録商標です。

お問合せ: MOCCS SS 流通商事(株) 019-637-2478

(株)盛岡卸センター 業務課 019-638-1111

退職金の積み立てに全国卸商業団地企業年金基金を活用してみませんか

全国卸商業団地企業年金基金は、全国の卸商業団地で働くみなさまの退職後の所得の充実を図る目的で設立された確定給付企業年金制度です。現在、約**655**事業所、**14,800**人のみなさまにご加入いただいています。以下が当基金のメリットです。

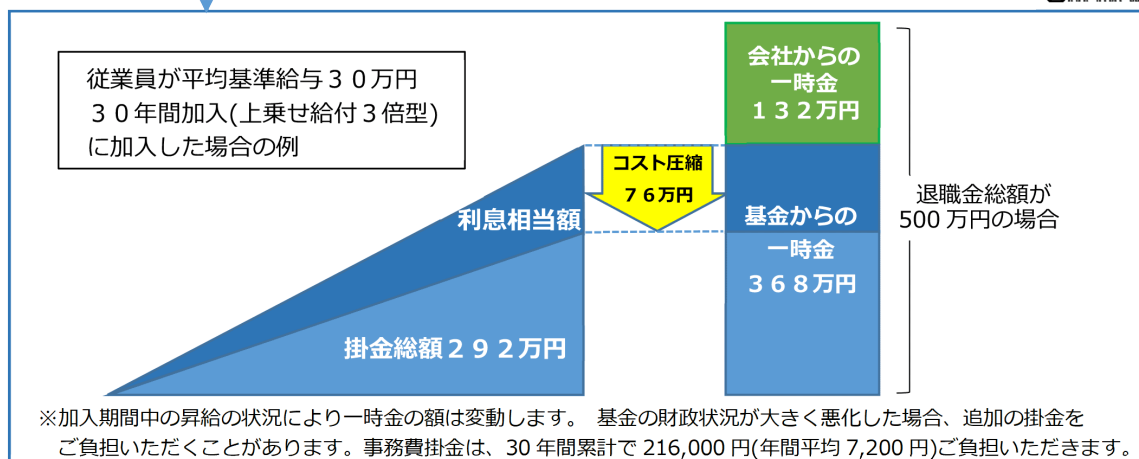
- ▶ 掛金は**損金算入**できます。
- ▶ 平準的に積み立てることで**資金繰りが安定**します。
- ▶ 従業員が給付を受ける際には、**退職所得控除**もしくは**公的年金等控除**が受けられます。
- ▶ **新規加入年度の翌々年度まで事務費掛金が半額**です。
- ▶ 退職金積立のコスト負担が**軽減**できます。

当基金では、加入者毎に仮定の個人勘定を設け**掛金に1.5%(複利)の利息を付与**しています。

退職金規程で、規定する退職金総額に当基金から受け取る年金や一時金を含む旨を定めれば、

利息相当額の退職給付コストを圧縮することができます。

パンフレットはこちら



詳しくは「全国卸商業団地企業年金基金」まで ☎03-3560-7017 東京都港区赤坂 5-1-31

住友生命からのご案内

住友生命では商団連様ご加入の組合員様の福利厚生制度向上のために、さまざまな提案をさせていただいております。

令和7年4月から 商団連3大疾病グループ保険（会社掛）がスタートします！

仕事と治療の両立支援を強力にサポートします。商団連グループ保険とあわせてご加入をご検討ください。

<商団連団体保険のラインナップ>

主たる保障内容	掛金の負担		備考
	企業（経営者）	従業員個人	
死亡保障	商団連グループ保険（会社掛）	商団連グループ保険（個人掛～ファミリープラン～）	災害保障特約付き 商団連独自給付有り
3大疾病 （がん、急性心筋梗塞、脳卒中）	商団連3大疾病グループ保険（会社掛） ～New～	商団連3大疾病グループ保険（個人掛）	死亡保障および 高度障害保障無し

※詳細は、商団連団体保険の各パンフレットをご覧ください。

商団連3大疾病グループ保険<会社掛>のご案内

がん(悪性新生物)・急性心筋梗塞・脳卒中 により約款所定の条件に該当した時、保険金を一時金としてお支払い（死亡保障や高度障害の保障はありません）

- 1、掛金は会社掛（損金または必要経費に算入できます） 保険金は加入者受け取り（非課税）
- 2、死亡保障のないシンプルな保障とスケールメリットによるお手頃な掛金
- 3、医師の診査は不要（告知事項に該当が無ければお申込みいただけます）
- 4、早期発見や治療支援、復職支援の付帯サービスもご利用いただけます
（例：がんセカンドオピニオンサポートサービス、重症化予防支援サービス「Mystar」）

治療と仕事の両立支援を強力にサポートします

<ご加入例>

従業員合計21名で試算

合計月額概算掛金：16,915円

スケールメリットを活かした手頃な掛金でご準備いただけます



社長様

事業主 63歳 男性
主契約保険金額：500万円
月額掛金：8,215円



52歳男性
×5名

従業員① 52歳 男性
主契約保険金額：100万円
月額掛金：756円
756円×5名=3,780円



43歳男性
×5名

従業員② 43歳 男性
主契約保険金額：100万円
月額掛金：379円
379円×5名=1,895円



38歳男性
×5名

従業員③ 38歳 男性
主契約保険金額：100万円
月額掛金：349円
349円×5名=1,745円



27歳女性
×5名

従業員④ 27歳 女性
主契約保険金額：100万円
月額掛金：256円
256円×5名=1,280円

商団連団体保険（グループ保険・3大疾病グループ保険）の掛金

商団連グループ保険掛金（保険金額100万円の場合）

保険金額	性別	保険年齢							
		15歳～35歳	36歳～40歳	41歳～45歳	46歳～50歳	51歳～55歳	56歳～60歳	61歳～65歳	66歳～70歳
100万円	男性	276円	300円	338円	402円	499円	635円	871円	1200円
	女性	239円	276円	296円	343円	399円	457円	546円	672円
100万円	男性	1511円	1652円	1814円	2003円	2227円	75歳まで新規加入可能		
	女性	831円	905円	991円	1087円	1190円			

■記載の掛金は概算掛金です。実際の掛金は、申込締切後に確定します。すでに掛金を払い込まれている場合は、確定掛金との差額を精算します。

商団連3大疾病グループ保険掛金（保険金額100万円の場合）

保険金額	性別	保険年齢							
		15歳～35歳	36歳～40歳	41歳～45歳	46歳～50歳	51歳～55歳	56歳～60歳	61歳～65歳	66歳～70歳
100万円	男性	239円	349円	379円	536円	756円	1,129円	1,643円	2,326円
	女性	256円	441円	531円	603円	722円	841円	1,072円	1,453円
100万円	男性	2835円	3023円	3221円	3428円	3646円	75歳まで新規加入可能		
	女性	1718円	1813円	1913円	2017円	2125円			

■記載の年齢は、保険年齢を使用しています。保険年齢は、更新日現在の年齢を満年齢で計算し、1年未満の端数について6ヶ月を超えるものについては切り上げて、6ヶ月以下のものは切り捨てます。